

## 呑川の植物（5～6月）レポート

2020.7.5

梅雨のなか野草は美しい姿を見せてくれます。この時期各処で、紫陽花が見頃（妙見寺等）ですが呑川沿いの野草も可愛い花を見せてくれます。今回は8種類を紹介します。

この場所にどうしてこの野草が繁殖しているのかと考えると、夢が広がります。呑川沿いでは人意的に植栽された野草は少なく、ほとんど自然に生えてきたと思いますが他の野草と混在・調和して生育しています。

① 「クラピア」（岩垂草の一種）は呑川上流で見られます。工大橋付近は2018年の防護柵整備でツタに代わりクラピアが植栽されました。当初はすぐれ状であまり目立たなかったのですが今年はグリーンのカーテンのように繁茂しています。今月は可憐な白い小さな花をたくさん付けていました。上空には伸びないようです。3mほど垂れ下がっています。クラピアは10～3月は冬枯れ状態になる。なおクラピアは種苗登録

されて  
いる。



壁面のクラピア



工大橋下流側、左岸



(5)クラピア(上流部・工大橋付近・左岸)

## シモツケ



② 「シモツケ」は目黒区、呑川右岸のまちかど公園に見られます。なまえの通り下野（栃木県）で見つけられたとあります。ピンク系や白もあり、花の期間が長く（5～8月）楽しめる。落葉低木、丈は50~100cm、バラ科、別名キシモツケ（木本性）。シモツケ草（草本性）はべつの多年草です。



ボタンクサギ



ウマノスズクサ

③ 「ボタンクサギ」は一之橋児童遊園に見られます、花は樹木のクサギに似ていますが花はマリのように集まって咲く。植込みの中から頂花が飛び出て見えます。臭みはありませんでした。中国原産。（別名、紅花クサギ）この場所（呑川の蓋がけ部）には多くの野草、雑草が見られます。

例：ヤナギバルイラソウ、ランタナ、ヒオウギズイセン、コムラサキシキブ、コヒルガオ、ノイバラ他。

④ 「ウマノスズクサ」は谷中橋左岸のヘデラの植え込みに見られます。葉は長さ4~7cm、三角形に近い形で基部は両側が耳のように張り出している。長い筒のような花の形状に特徴があり、先端がラッパのように広

がったユニークな形。(実が馬の鈴に似ているのが名の由来とか) 冬は枯れるが毎年ツルが伸びて花を付けます。どうしてこの場所のみに繁茂しているのか不思議です。ジャコウアゲハの食草として知られていますがこの近くで蝶を見たことはありません。(別名、ジャコウソウ)



ウマノアシガタ



ウマコヤシ

- ⑤ 「ウマノアシガタ」は呑川左岸の養源寺に見られました。「馬の脚形」という変わった名前は根生葉の形を馬のヒツメに見立てたとも云われています。別名のキンポウゲでよく知られ黄色い花はつやがあります。“金鳳花”(八重咲品種)は美しい花に基づく。茎に付く葉はない。
- ⑥ 「ウマコヤシ」(別名、ムラサキウマコヤシ)は堤方橋の左岸に見られます。ヨーロッパ地中海が原産、牧草として導入されたとあります。全国に広まっている。



ゼニアオイ



タチアオイ

- ⑦ 「ゼニアオイ」は宮前橋左岸外で見られました。地中海沿岸が原産、江戸時代に渡来して観賞用として栽培されたが野生化した。直径 3.5cm ほどの 5 弁花は淡紫色で濃紫色のスジが入り下から上へ順に咲きあがる。花期は 6~8 月、草丈 60~90 cm。
- ⑧ 「タチアオイ」は養源寺橋の左岸に見られました。中国原産、古来薬草として用いられた。草丈は 2m 以上、茎は直立し、花期は 7~8 月と資料にあるが年々早く花を付ける。梅雨入りで咲き梅雨明けで花が終ると資料にありました。

ゼニアオイ、タチアオイの葉は類似ハート形で浅い切れ込み在り。

参考図書：野草図鑑、株式会社ナツメ社。雑草や野草がよくわかる本、(株)秀和システム、標準原色図鑑全集、株式会社 保育社